

なほ

1 月号
vol. 155

あいまに
まめでし
ごがいま



特集

ぐだぐだ

⑧ ORDINARY SEKAI HOTEL

「賀正でちゅう」
梅南3丁目付近にて撮影

2018年1月からゆ〜とあいは居住支援法人のなかま入り。まちの人の相談の中で「このまちの公営住宅や古い木造住宅をもっと活かさなきゃ。」そんな気持ちがふつつつあふれてくる。ヒントを探しにいろんなところへ、いろんなひとに。

ゆ〜とあひ

⑧ ORDINARY “日常”生活の体験でお出迎え SEKAI HOTEL

2017年6月、大阪市此花区西九条に「まちごとホテル」をコンセプトにSEKAI HOTELがオープンした。地域の日常を楽しんでもらうことが旅行者・観光客にとっては「非日常」。まちの空家を客室にリノベーションするだけにとまらず、潜在的な資源を開拓し、地域の活性化につなげる取り組みは、東大阪市の布施にも広がり、富山県高岡市(2020年オープン予定)へと続いていく。



空き家を改装したホテルフロントにはカフェも併設している。

け入れるのは簡単にはすまない。時に民泊は近隣住民とトラブルの種にもなる。特区認定をあわせて、全国には27769件(2019年8月末)の届出があり、特区民泊を認めている大阪府に4割以上(11683件)が集中し、西成区は1548件と中央区・浪速区に次いで多い区で、まちを歩くと、民泊反対ステッカーを見ることもある。民泊だけでなく、福祉施設建設などに反対する施設コンフリクトは現実にある。極端に言えば、地域がよそ者や異質を排除することもある。西九条に縁もゆかりもなかったよそ者のSEKAI HOTELがどうやって地域に溶け込もうとしているのか。そんなところを取締役の渡辺優(ゆう)さん聞いてきた。

日常を楽しむしかけ

SEKAI HOTELの親会社は、クジラ株式会社。本社は大阪市北区中崎町にあり、中古物件の空間プロデュースを中心に、不動産・デザイン・

建築をワンストップで提供しているベンチャー企業だ。旅行者×クジラ×地域活性の実験活動から生まれたのがSEKAI HOTELブランド。

USJの玄関口であり、梅田・難波に10分もかからない立地。商店街や空家もそこそこ残る西九条に目を付けた。事業スキームは、投資家が物件を所有リノベーションとオペレーションをSEKAI HOTELが行うサブリース方式が中心。当初は地価が相場的にも割安だったこともあり実験的な取り組みをするには最適だった。スタートから3年近く、いまでは14棟・収容人数70人の規模の事業に育ってきた。近々、新棟もオープンする。大型の一棟貸しの客室も多く、家族連れの人気も高い。最近では大阪在住の人々が女子会で宿泊したり、帰省時に利用されたりと、幅広い層に喜ばれている。

地域で日常を楽しむしかけは、ホテルをオープンする前から営業をしている地域のお店との連携。宿泊者に配布されるSEKAI PASS(宿泊客以





外も購入可能)で、提携店を無料や割引価格で利用できる。銭湯や喫茶店、お好み焼き店など10店舗近くが登録し、提携店は費用負担もない。それどころか、パートが苦手なスタッフがいなくてといったお店の困りごとの解決(たとえばネット上に店の情報をアップする)に一役買っていて、日常を支える資源の活用貢献している。

また、ホテルフロントを兼ねたカフェを9〜22時までオープンさせ、地域のみなさんに自社の取り組みを知ってもらいながら、旅行者の玄関口となるプラットフォームづくりをすすめている。

地域と対等な関係で

コンセプトとしかけを練り上げてはいたものの、実際に地域との関係づくりは一筋縄ではいかない。オープンのあいさつをしたとしても、ある日突然、空き家がオシャレなSEKAI HOTELに改修されていたら、地域は不安や戸惑いを感じる。

そうした声を集め、対話できる場と



SocialGood200 (一泊あたり200円が地域のために使われる)

利益だけではない価値を伝えること

現在スタッフはアルバイトを含めて50名の組織になった。店じまいを考えていた提携店が元気になったり、西九条の地価も回復したり、自社の収支だけでは測れない効果や価値を生み出している。

これを自社・自己満足に留めず、共有できる価値として広げることも長けている。驚いたのがカッコいいへのこだわり。物件だけでなく、人事でも



提携店で体感できる「ORDINARY(日常)」がSEKAI HOTELの魅力。

して、定例のタウンミーティングをカフェで開催している。地域のみなさんに呼び掛け、コンセプトや取り組みを説明する。過去には「責任者出てこい」という緊迫した場面もあったそうだが、「お願いします」という姿勢は避けている。地域の一員として共に地域の魅力をつくるためには、対等な関係でいたい。どちらかが無理をすると、続かない。時間はかかるかもしれないが、お互いができることを持ち寄るスタンスは変

服装・食事など4つの項目でスタッフのライフスタイルを評価対象に組み込んでいる。SNSの発展で、ネットをつなげば地域密着型の取り組みも世界につながる。一社員にも、日常の積み重ねを大切にもらう方針がここにも見て取れた。その甲斐もあって、関西圏だけでなく東京からの学生インターシップも途切れることがない。若手の人材確保は中小企業の大きなテーマだが、スタッフのうち昭和生まれは4人だとか。

取材当日、犬の散歩中の女性がふらりとカフェに立ち寄った。「ええことばかり、言ってるんちゃうやろね」と笑いながら話しかけていた。長屋ホテルの隣にお住まいの女性で、騒音などで迷惑をかけることもあるそうだが、その掛け合いはいかにも自然で、日常に溶け込んでいた。

暮らしに笑顔(スマイル)を

冒頭にも述べたように、西成区は民泊が多い。同時に老朽密集市街地

えなかった。今では、餅つきや小学校のイベントなどにも声がかかり、タウンミーティングの案内が地域の回覧板で回るようにもなってきた。

また、いくら地域の一員だとしても、何が言っても、地域のために何ができるかを見える化することも必要だ。その1つに「SOCIALGOOD200」の取り組みがある。1泊につき200円をお客様の宿泊料から拠出し、それを原資に地域の子どもたちに教育の機会を提供するイベントや地域清掃などを支援している。3000円台で泊まれるドミトリールームもあるなかで、負担としては軽くないだろうが、地域×旅行者×ホテルが活性化にもつながる大切な取り組みだ。

2018年にオープンした布施では、オープンスペースそのものが、ギャラリーの役割を果たしている。東大阪市の地場産業であるものづくり企業と連携し、ソファや机、ランプなどを開発し、日常つかいをしながら展示販売にもつなげている。

指定されるエリアもあり、空家が22630戸(23.8%)と市内の中でも一番多い区である。また、公営住宅は75棟(3340戸)、生活保護世帯数は23457世帯(33.7%)など、ハードソフトともに課題が多い。

にしなり隣保館「スマイルゆくとあい」は約3年前から居住支援法人としても活動している。まちづくりとそこに暮らす人を笑顔にするのは隣保館の役割であり、居住支援法人のミッションである。空家、住居、支援をキーワードに住居の確保に困っている人と住居を結びつける事業に取り組み、空家を活用した「支援付きシェアハウス」のあり方を現在模索している。

そうした関心でみると今回のSEKAI HOTELの「まちごと」というコンセプトの取り組みは凄く興味深い。発信すること、共有することの価値を高め、センスを求めていくことが今の時代には必要だと改めて感じさせられた。

文責:西田吉志 田岡秀朋



にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

商店街に唯一 イタリアンバル YOSHIDA

鶴見橋商店街ではあまり見かけないイタリアンバル「YOSHIDA」、6番街にあつて前々から少し気になって食べに行ってみたいなと思っただけが、なかなか一人でイタリアンには行きにくい。しかし、今回は『なび』の取材という名目を利用し突撃してみました。

店内はL字のカウンターとテーブル席がいくつか。イタリアンのオシャレな雰囲気は上手く表現できなくてもどかしい。若くて好青年の風貌のオーナーは店内の数名のお客さんを相手に、一人でホールとキッチンを切り盛りされていた。

さて何を注文しようかと悩んでいると、手作りのメニューの右上に小さく書かれた気になる前菜メニューを発見。「干し柿とマスカルポーラチーズディップ生ハムまき」。人生で初めて食べたが生ハムの塩味とチーズの濃厚さ、干



し柿のほのかな甘みが合わさって箸が止まらなかつた。白ワインとかに合うのかな。

メインにはオーナーおすすめの「トマトたっぷりマルゲリータ」を注文。キッチンの下に小さいオーブンがあり、ピザを焼いている香ばしい匂いが漂ってくる。生地の上にチーズとトマトがたっぷりのついで、その上からさらに粉チーズとパザル。チーズが好きなので、「おいしいに決まってる」と思ったが、やっぱりおいしかった。ありが

たりな表現になるが、生地はサクサクもちもちで、チーズとトマトの酸味の相性がバッチリ。タバスコを少しかけると、お酒のおつまみにもぴったり。他にもパスタやステーキ、お酒に合いそうなおつまみがたくさんあったので、また行くだろうなと思ひ、お礼を言つて退店。「また来て下さいね」という言葉が嬉しかった。

いる場所に行つてみた。地元住民である筆者はそこに到着すると「ここか!」となつた。地元では「ロータリー」と呼ばれている、今ではすっかり普通の交差点は、かつてはソテツの植え込みを取り巻くロータリー交差点だった。地図をみると、たしかに形状に名残がある(あ、ここ、堺筋の終点だ)。この交差点周辺が「東今船町」と呼ばれていた。継承碑はその交差点の北西角に建つていて、向かいのファ○○○ートが目印になる。大正14年4月の第二次市域拡張のときに大阪市に編入され西成区東今船町となつた。

ということ、線路(現在は阪堺電軌阪堺線)の向こうには「西今船町」の継承碑があるはず。大きな通り沿いに線路を渡つて少し歩くと、地藏尊が現われる。そのすぐ近くに、予想したとおり「西今船町」の継承碑が建つていた。このように昔の町名を辿ると、昔の様子を感じることができ、面白い発見につながっていく。よくわからなかつた昔のことも新たな知識や情報として頭に入れておけば、自分なりに勉強できる。あらためて歴史を振り返るのは大切なことだと思つた。

イタリアンバル「YOSHIDA」

住所：西成区鶴見橋3の1の16
TEL：06-6562-3718
営業開始時間：17時30分
定休日：火曜日

鉄道が東西に分割 今船町

西成区内の旧町名継承碑をめぐるシリーズ、今回は現在の天下茶屋北、天下茶屋東交差点にある東西の「今船町」をお伝えする。まずは継承碑が建つて

「東今船町」の碑文を読むと、昔はこの周辺まで海浜が迫つており、船舶の出入りが多かったという伝承に由来する旧字名(西成郡今宮村の一部)だったそうである。東と西に分かれたのは、阪堺電気軌道平野支線(今池〜平野間)が開業(大正3年)されたからである。因みに、現在の今船停留場は当時「飛田停留場」という名称だった。



文責：山村裕太・寺島史視

【沖田一志】Win7のサポート切れてませんか？有償の延長サポート(ESU)の対象が10月になって大幅に拡大されたことを後で知った。大きなニュースだと思ふのに全く報道されなかつたのはなぜ？



【佐々木敏明】神の旅月鉄橋をのぼりゆく冬桜亡者競いて花喰らう街路樹にライト背負ひ冬非道



【田岡秀朋】レスポンスビリティとアカウンタビリティ。2つとも責任と訳されるそうだが、なんかニュアンスは違う。「向き合う責任」と「結果責任」かな。今年は両方大事にしたい。



孤立をおそれず、紙面でつながる地域の輪



川股 なな (かわまた なな)さん

ゆ〜とあいの「喫茶なび」で今年の7月から働いています。喫茶をご利用いただくお客様からいつも気軽に声をかけていただけるので、毎日楽しくお仕事をさせていただいています。

小学校3年生から高校生までずっとバスケットボールばかりしていました。中学校の時は大阪市内でベスト8まで進みました。今は5歳になる子どもとの時間を大切にしています。もう少し大きくなったら一緒にバスケットボールがしたいです。

これからも「喫茶なび」でお世話になりますが、お客様からのご要望にはできる限り応えたいと思います。よろしくお願いします。

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのもっさり系コラム。

『昭和天皇』

去年11月10日に行われた即位パレード「祝賀御列の儀」は、天の気も祝福しているかのような爽快な秋晴れのもとで行われた。オープンカーのボンネットに照り輝く陽光は主役二人の後光が具現化したかのように、テレビにもインスタにも映える印象的な場面だった。沿道に集まった約12万人の笑顔、パレードにかざされた数多のスマホも印象に残った。平和な裡に行われた様子をテレビ越しに見て、「元号が変わることはこの国にとつてすごく大きな意味をもってるんだなあ」とぼんやり感心した。「令和は平和」という語呂あそびも頭に浮かんだ。

この即位パレード開催のきっかけになった明仁天皇(当時)の「おことば」、2016年7月のことだが記憶に新しい。カメラに向かうその表情は、いつもとは異なる神妙な面持ちを湛えていた。この10分あまりの動画で明仁天皇(当時)は、天皇の象徴としての務



めを、国民の安寧と幸せを祈ること及び国民の思いに寄り添うことと定め、その務めができなくなれば生前であっても退位するしかないという考えを表明した。

この「おことば」を受け、政府や世論は大いに動いた。その動揺は「おことば」の政治的な影響力が日本国憲法施行70年以上経った今も絶大であることを知らしめた。そう言えば、天皇の「おことば」は戦前には「勅語」と表現されていた。あの教育勅語に倣うと、今回のおことばは「退位勅語」とでも表現できようか。

さて、原武史『昭和天皇』は「昭和はまだ終わっていないのである」という印象的な言葉を最後に残し

6月 3つふたまたま 豊間

まちの四辻の風景。とうとう角3つの建物がなくなりました。もともと写真正面の角地は木材屋さんだったが、今は急ピッチで何かを建てる工事をしている。右手角はその木材屋の資材置き場だったが、昨年の台風でなくなり、駐車場になっている。その奥はというと、昨年の『なび』5月号で取り上げた木造の建売住宅に建て替わった。筆者が立つ写真手前側の角には現在、学習塾があるが、昨年の8月時点ではタバコ屋さんがあった。

新年に向けて、まちの顔も一新。最近はいったところで工事がされていて、少しずつ着実にまちが変わっていくのを感じる。でも地域で育ち、長く住んだ者でなければ、もともとそこに何があったかはなかなか思い出せない。

ところが、実はGoogleの地図で、過去のこうした風景を追えるから凄い。年末の大掃除の息抜きにまちを振り返ってみるのも楽しい。

(安田拓也)



近所の変わり行く風景

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から、紡ぐヒントを探してみる。

新年

ている。本文中でよく引用される木戸幸一(昭和天皇の側近中の側近)の日記の一文が忘れられない。木戸は戦犯容疑者として巣鴨プリズンに収監される前に昭和天皇と会食し、講和条約成立後に責任をとって退位すべきだと提言、日記に次の言葉を付け加えている。「若し如斯き(かく)事(こと)ならば、皇室(こうしや)が遂に責任をおとりにならぬことになり、何か割り切れぬ空気を残し、永久の禍根となるにあらざるやとおそれる」。もし昭和天皇が退位しなければ、皇室だけが責任をとらないことになり、「永久の禍根」になるのではないか。この日記に書き留められている不安が見事に的中した現実、それがいま、わたしたちの目の前に広がっている。

著者はこの書に続き『昭和天皇実録』を読む『平成の終焉』も岩波新書から刊行している。昭和は平成に引き継がれ、令和に持ち越されている。

ハンブレイ・T

9 [安田拓也]「明けまして、おめでとうございます。」もうそんな時期ですか?心の準備が全く整ってありません。曜日感覚も余りないので…なんとか充実した日々を送りたいと思います。



[西田吉志]「明けましておめでとうございます!今年も去年よりも激動の1年になる予感。去年も大概やったと思うけど…。こうして毎年の積み重ねが、自分にとって大きな経験値になると思えば頑張れる。」



[寺島史視]2020年、ネズミ年。今年も、東京オリンピック・パラリンピックが開催される年である。盛り上がることは間違いないがどんなことが起きるのかな?少し楽しみにしている。



[谷口円]ふと思立ってiPadを買いました。気がつけばMacにiPhoneにiPadという、Apple信者スタイルに…。なにはともあれ、今年もよろしくお願いたします。



葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「サンズベリアの葉っぱ」の巻

私は背筋をピーンと伸ばして生きている。背筋をピーンと伸ばせば、悲しかった事を忘れられる。背筋をピーンと伸ばせば、心がすっきりする。2020年、新しい年を迎える。私はこれからも上を向いて歩いて行こう。何か新しい挑戦をしてみよう。だけど決して無理はしない。自分のペースは崩さない。もしペースを壊しそうになったらひと休み。そして思いっきり背筋をピーンと伸ばしてみよう。

赤井まゆみ

サンズベリアのこと
リュウゼツ科の植物で和名は「虎の尾」とも言う。すらりと真っ直ぐ剣のような葉が特徴。花言葉は「永久」「不滅」

皮算用 胸算用

11月23日に鶴見橋商店街7番街で「靴まつり」を開催した。7番街の皆さんの協力のもと大阪靴メーカー協同組合と西成製靴塾が中心になって企画し進めた。「靴のまちとして有名だった商店街を靴でにぎわいを取り戻すことができないか？」そんな思い付きで始めた企画だった。西成高校の高校生が運営するアンテナショップ「笑い屋」も同日オープンした。

当日は多くの人が足を止めていただいて、なかなかの賑わいであった。西成の靴産業も商店街も少し元気がない。靴職人さんの社会的地位の向上や靴で元気な街づくりなどを考えてみたい。昔からある西成の地場産業を絶やすことなく人材の育成を目指したい。

(寺本良弘)



い湯かげん

20周年を迎えたエル・チャレンジ

エル・チャレンジが創立20周年を過ぎ、昨年11月に記念行事を開催することができた。せっかくのことだから、「これまで」と「これから」と、とくに大阪の都市政策と関連づけて記しておきたい。

エル・チャレンジ創立の1999年の頃、様々な意味において転換の時だった。一つは、障がい者雇用のなかでも遅れていた知的障がい者の雇用にもようやく光が当たり始めていた。そこに、「働く意欲は、働くことから」と、知的障がい者雇用の核心をつくようにエル・チャレンジは登場した。二つは、雇用対策法の改正(2002年)で注目が集まりはじめた自治体の雇用政策に、エル・チャレンジは先駆けた。「社会的援護を要する人々への社会福祉のあり方に関する検討会」

報告書(2000年12月)よりも以前であった。三つは、同和対策法の最終(2002年)を目前にした同和行政改革を進取するものでもあった。ポクは、当時部落解放同盟大阪府連の役員でもあったが、同和対策で就労していた同和地区の人々が施策の変更に応じてくれたことに感謝した。四つは、当時すでに大阪府は財政危機に直面していたが、当時の府職員の真剣さは秀逸であった。エル・チャレンジは行政改革を先駆けるものでもあった。エル・チャレンジが飛躍したのは、2003年に大阪府が総合評価入札制度を導入した時であった。その意義は、一つは、この入札制度改革によりエル・チャレンジとビルメンテナン業界との協働が飛躍的に進んだこと。「福祉と市場」の協働は当時まっ

たく珍しいものだった。その後に九州や韓国で公共調達を社会的価値実現に活用する法制度改革が実行されていくのだが、大阪は10年先を走っていた。二つは、総合評価入札は、横山ノックさんから吉村洋文さんまで5代の知事によって、時に厳しい詮議を受けながらも継承され、再評価されてきたこと。いわば「改革のロングセラー」となったことの意味は大きい。三つは、この入札改革も一つのシンボルとなって、「社会的企業」という新しい発想が芽生えてきたこと。都市公園管理にNPO等が参入したのもその表れだった。そして、「これから」だ。2016年4月、大阪府はハートフル条例を改正、施行した。その意義は、一つは、公契約の入札を福祉の増進に活用することを条例化したこと。国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)の「17 持続可能な公共調達の推進」を日本で初めて具現化することになった。二つは、「職場環境整備等支援組織」という労働市場での中間支援組織を条例で「認定」したこと。地域社会に地域福祉のソーシャルワークが求められているように、労働市場でもソーシャルワークが必要であること

を、事例と共に宣言したことの意義は大きい。口幅つたい言い方だが、それは、雇用率を改竄した国の省庁が、大した反省もなく「就労支援なき駆け込み雇用」で過ちを上塗りしていることへの対極にあった。三つは、大阪都構想の是非はともかく、大都市おさかの都市政策を構想するにあたり、公契約のあり方、とくに公契約における市民力の活用は重要なテーマであり、条例はその問題提起を成したと評価できる。かくして、エル・チャレンジは20年の時を刻み、ハートフル条例はスタートした。障がい者雇用、人権運動が先に帆を上げてくれていたからこそ、大阪の共生の都市づくりが大海に船出することができたのかもしれない。いつかそう言われたいと思った。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[若松司] 語るべきことがないときには語らないでよい、と思う。今回はそんな心境です。



[山村裕太] 自分は絶対に太らない体質だと思っていましたが、30代になって少し太りました。夜中にラーメンは辞めようと思いましたが、酔った勢いで食べちゃいますね。



地域の縁を心でつなぐ

松向寺の 心の時間

しても願いがかなう約束はありません。ただ、東井義雄先生の著書に「拝まない者もおがまれている」とあるように「私が仏様に幸せを願うのではなく、仏様が私の幸せを願っている」ことに気づけば「ありがとう。おかげさま」に変わります。

また山本有三さんの著書『路傍の石』に「たった一度しかない人生を、ほんとうに生かさなかつたら、人間、生まれてきたかいないじゃないか」という名言があります。生きているからには困難な壁にぶつかることもあるでしょうが、仏様は「幸せに暮らせよ」と願ってくださっています。今年も仏様と共に暮らし、生まれてきて良かったと喜べる一年に仕上げたいです。

松向寺 通法

相田みつをさんの「おさい銭」という詩に「百円玉一つぽんと投げて手を合わす おねがいごとの多いこと」とあります。新年を迎え、多くの方々が除夜の鐘に始まり初詣と様々なお願いをされたことでしょう。

そんな中「せっかかくお参りに行ったのに、帰り道で事故に遭った」という方もいたようです。お気の毒ですが、お参りを

ココドコ

ココはドコ？
おたしはぐ〜れ？
編集部が間違えた
「にしなり100景」
大公開！

青空にそびえ立つ塔のようなもの。ちょこんとついた時計が可愛いですね。ココがドコかわかった人は、ゆ〜とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします(先着10名様限り)。回答期限は1月末日、ふるってご回答ください！

【先月号の答え】 西成区北津守3丁目にある久金属工業株式会社の入り口)でした！西成の建築遺産です。



2018年4月撮影



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび1月号(vol.155)
発行日:2020年1月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司
編集:沖田一志、佐々木敏明、岡田秀朋、寺島史視、西田吉志、安田拓也、山村裕太(あいうえお順)
イラスト:hidarimakい デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

